

# DJ Magazine 3月号 (2021)

ドキュメンタリージャパン

vol.56 2021.3.3

映像制作会社ドキュメンタリー  
ジャパンが今お届けするテレビ  
番組や映画のお知らせです。



## 1 3.11からの「ことば」～綿矢りさ 表現者たちとの対話～

放送予定: NHK Eテレ 3月14日 (日) 午前0:30～1:15 \*13日 (土) 深夜

再放送: 4月7日 (水) 午後10:00～10:45



つづやぎ  
製作スタッフの

恋愛小説や、いわゆる「こ  
じらせ女子」を描くことを得意とす  
る綿矢りささんと「震災」、意外に思わ  
れる方も多いかもしれませんが、綿矢さん  
の創作と「地震」は長い年月関係しあってき  
ていました。2011年に東日本大震災が起き  
たとき、綿矢さんは京都、対談相手の沼田さん  
は福岡、小林さんは東京にいました。「当事  
者」ではない立場から作家たちがどう震災と向  
き合ってきたか。ぜひご覧ください。

ディレクター 中井佐和子

東日本大震災から10年。現実を大きく揺さぶった未曾有の  
災害を経て、数多くの表現者によって、「震災」は様々な  
形で「作品」となってきた。「震災」を描いたのは、逡巡  
の末の書きたいという衝動だったのか、それとも記録するこ  
との使命感だったのか。震災を「物語」の中に落とし込ん  
でいった作家たちの「ことば」と思いとは? 小説家・綿矢  
りさが同世代の作家たち (小説家・沼田真佑 / 作家・漫  
画家小林エリカ) と対話。さらには震災直後に綿矢が訪れ  
た気仙沼高校の文芸部員ともオンラインで再会する。



つづやぎ  
製作スタッフの

「嫌われ芸人」の代名詞  
のような村本さん。企画立案から放  
送まで2年を要しました。当初はなかな  
か企画が採択されなかったり、制作中は、  
テレビ関係者に取材を申し込むも断られ  
たり、村本さんが出演した過去番組さえ使用で  
きななかったりと、しんどい事もありました。一  
方、そうした体験からテレビで「放送できるモ  
ノ」「できないモノ」の線引きがどう作られるの  
か? 少し分かった気がします。そんな自身の体  
験も盛り込み、番組を制作しました。見ても  
らえたら幸いです。

ディレクター 日向史有



BS12 スペシャル

## 2 「村本大輔はなぜテレビから消えたのか？」

放送予定: BS12 3月19日 (金) 午後9:00～9:58



2013年の「THE MANZAI」優勝者、ウーマンラッシュ  
アワー・村本大輔。人気芸人の仲間入りを果たし、年  
間 250 本を超える番組に出演した時期もあった。しか  
し、政治や社会問題を漫才に取り入れ、SNSでも炎上  
を繰り返す中、テレビ出演数は激減。2020年は、1本  
のみとなった。村本は、なぜテレビから消えたのか?  
1人の芸人を通し、テレビというメディアを見つめる。



BS1スペシャル

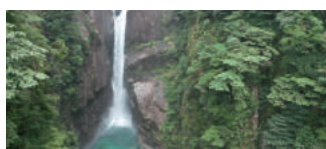
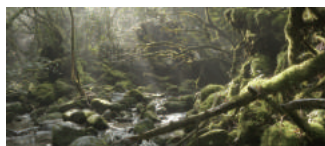
## 双葉から遠く離れて、10年 (仮)

放送予定: NHK BS1 3月7日(日) 午後8:00~8:49

再放送: 3月10日(水) 午後1:00~1:49



震災から10年、今も全町避難が続く福島県双葉町。原発事故直後、250キロ離れた埼玉県の廃校へ役場ごと避難した。年月が経ち、中間貯蔵施設という負の遺産を受け入れた町は、放射線量が低減した地域への帰還計画を打ち出す。「最も遠くに避難した町」の「最も遅れた復興」はどうなるのか。避難生活の10年を通し、コミュニティの変容と原発事故の不条理を見つめる。



世界で一番高い“路”、グレートヒマラヤトレイルを辿りながら「ヒマラヤの絶景」を撮り続けてきたクライマー兼カメラマン石井邦彦と中島健郎が、新しい挑戦の場を日本に見いだした。「洋上のアルプス」と呼ばれ、幾重にも山々が連なる屋久島。厳冬の山に分け入り、110mの滝を登り、頂上に広がる日本最南端の樹氷を撮影。知られざる大自然の姿を映し出す。



地球(アース)トラベラー・ジャパン

## 屋久島 未知なる水の聖域へ (仮)

放送予定: NHK BS4K 3月21日(日) 午前11:30~12:59



連載リレーコラム

## 「私のデビュー作」

第10回

ディレクター 木村竜太

番組名 / アジアWHO'S WHO「瞳を合わせて、握手して〜ソウル・キム校長と700人の生徒たち〜」(NHK BS1 | 1999年)



主人公は韓国でドロップアウトした若者を受け入れる高校を興した校長先生。毎朝校門で全校生徒と握手を交す情熱家だった。その人柄に魅かれたが、とにかく金魚のフンの如く先生にくっつき話を聞くことしか思いつかない…そんな拙い僕を鈴木Cと戸田VEはバカにせず、叱咤激励しつつ助けてくれた。忘れられないのが暴力沙汰で前の学校を退学になった少年へのインタビューでの戸田VEの助け船。助言をもらい「校長と初めて握手した時の思い」と問うと硬かった彼が破顔一笑、自分を受け入れてもらえた喜びを目を輝かせ語ってくれた。大事なものは上面の言葉でなく“心”を感じ取ることで知ると共に、「ディレクターは決して一人じゃない、チームで取材対象と向き合っている」と教わった瞬間でした。

10

### 制作中の番組



情熱大陸

JOUNETSU-TAIRIKU

新・地獄絵巻

新・地獄絵巻



その他、多岐に渡る作品を制作中です！詳細はドキュメンタリー・ジャパンのHPまで。

### 編集後記

突然のお知らせとなりましたが、今月号をもってDJ Magazineを休刊することになりました。2016年の3月号からスタートしてちょうど5年。誌面を見返すと、本当に色とりどりに沢山の番組を送り出してきたんだと改めて思いました。ドキュメンタリー・ジャパンの番組と、これを読んで下さった方々を少しでも結ぶことができたら嬉しいのです。今後、また別の形で皆さんへ番組のお知らせをお届けしたいと思っています。これからもDJをよろしくお願いします！(S.N)

Design by HARIMA koutarou

株式会社ドキュメンタリー・ジャパン

HP: <http://www.documentaryjapan.com>

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目12番20号 和晃ビル1F TEL:03-5570-3551 FAX:03-5570-3550